景観の国宝三段峡　みんなで守る特別保護地区シンポジウム

「景観の国宝三段峡　みんなで守る特別保護地区シンポジウム」が４月16日、三段峡ホテルで開かれました。１部で環境省中国四国地方環境事務所広島事務所の永瀬拓自然保護官が、自然公園法と４月に一部改正された要点を説明。２部では広島大学大学院統合生命科学研究所の学生で広大さんけん部の大崎壮巳さん、南葉錬志郎さん、宮田優大さんが野外博物館構想など「地域の元気応援プロジェクト」の活動を報告しました。さんけんの主催。

永瀬拓（ひらく）さん
山形県出身。2014年環境省入省、北海道知床のウトロ自然保護官事務所に配属。16年本省野生生物課、18年宮崎県えびの高原、19年熊本県で勤務。21年から現職。瀬戸内海（広島、山口）を担当しています。趣味は山スキー。

さんけん新聞

特別保護地区シンポジウム講演要旨

発　行
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川流域研究会
（代表・本宮炎）
〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
☎090・3421・3046

「国定公園特別保護地区について」

改正公園法　許可手続き簡素に　罰則強化

環境省中国四国地方環境事務所広島事務所　永瀬拓自然保護官

現在、国立公園は三十四あり、最近では沖縄やんばるが追加され、秋には日高山脈が国定公園から格上げになると聞いています。国定公園は五十八あり最近、厚岸霧多布昆布の森が指定されました。

■保護と利用が二本柱

両公園は自然公園法で定められています。優れた自然の風景地の保護（規制）と利用（事業）がキーワードです。国民の保健、休養、教化に資する―を目的とし、新しく生物多様性の確保が加わりました。両公園の指定基準と規制のレベルは同水準で、管理者が国か都道府県かの違いになります。

西中国山地国定公園は一九六九年に指定された広島、山口、島根にまたがる二八五平方キロで、冠山山地と三段峡、匹見峡など周辺の渓谷群を含む一帯です。

■最も厳しい環境規制

どこが優れていて、何を守るべきか、どう利用するのか―をまとめたのが公園計画です。価値を見直す意味でも時々見て欲しいですね。同計画は事業と規制とに分かれていて、事業には車道と歩道、集団施設の三つがあります。特別保護地区の三段峡は、歩道から見える全てに最も厳しい規制がかかっています。

特別保護地区で規制されているのは大小にかかわらず、建物や歩道、階段など工作物の新設、広告物や案内看板の設置。植物の伐採や採集。枝を折ったり、葉をちぎったりする損傷。植樹や種まき、花壇の設置。落ち葉の持ち出しも禁止され、焚火もダメです。今年四月一日から罰則が強化され、違反すると十二カ月以下の懲役、または百万円以下の罰金になりました。

■地元の計画積極受付

四月施行の改正自然公園法の要点は三点です。

自然体験活動促進計画制度　自治体や関係者で構成した協議会が提案する施設整備計画を積極的に受け付け、公園をより良くしようとするものです。手続き的には大臣認定を受けた協議会が、歩道の新設や案内板の設置など、認定された計画に基づく整備には許可が不必要になりました。

利用拠点整備改善計画　魅力的な滞在環境を整備するため、自治体やまちづくり団体を対象にした制度です。協議会を立ち上げ、地域の景観に合ったデザインを統一するための計画を作成し、整備する際の手続きを簡素化しました。

保護と適正利用　三段峡ではないかも知れませんが、人との距離を近付けないため野生生物への餌付けの制限と罰則の強化です。

質問タイム

深入山の種別　第一種保護地域ですから特別保護地区に準じる地域です。

奥三段峡の整備、川へ下りる道の新設　計画の作成は、提案できる制度にマッチしています。協議会で話し合い、誰が整備するか調整する必要があるでしょう。

山菜の採取　昔から採取しているのであれば、対象外の可能性もあります。

古い道の整備　地権者の了解があっても、申請して許可が必要です。

「三段峡植物について」

豊富な種　生物多様性の高い自然

広大さんけん部　大崎壮巳さん　南葉錬志郎さん　宮田優大さん

私たちが三段峡、さんけんさんと出会ったのは二〇一九年、広島大学の地域の元気応援プロジェクトに採用されたからです。これまで外国人向けパンフの作成、さんけん自然塾での野外教育・調査、野外博物館構想とWEB図鑑の立ち上げなどに取り組みました。

■深い森　動植物の宝庫

三段峡で確認されている種子植物は約七百種類です。県内は二千四百種、面積比一％ですからすごい多さです。延長十六キロ、標高差五百メートル以上の深い森です。たたら製鉄のため原生林ではありませんが、探勝路沿いにはシダ類が多く百種以上で県内の三割、コケ類は三百八十種で六割以上です。モミジやカエデも多く、県の準絶滅危惧種のキシツツジが見られます。自然と食文化を象徴するのが橡餅です。生物多様性の高い自然と文化的食物が残っています。

活動報告する広大さんけん部のメンバー

■博物館・図鑑で発信

元気応援プロジェクトは大学の学術的蓄積や教授、学生の力を活用して課題に直面した地域へ貢献するのが目的です。

知の発信源が必要だとして、野外博物館化を考えました。ビジターセンターを活用して昨年、動植物や橡餅の資料、説明パネルを一時的に展示しました。

WEB図鑑「原色広島三段峡図鑑」をスタートしました。動植物の項目をクリックしていくと写真や名前、特徴が表示されます。博物館の今後の発展プランとしては、展示物の増加と充実、新規参加者の募集、展示物の管理、フォトコンでの写真展示などがあります。

質問タイム

WEB図鑑の充実　「さんけん植物部」など分野別のグループを広げたいです。

コケ類が多い理由　湿潤地が多く、気候の幅と多様な環境があるからでしょう。

植物名の調べ方　見られる時期でネット検索、図鑑と絵合わせ、詳しい人と歩くのが良いです。

カタツムリの種と特徴　戸河内町史によると約四十種類が多く、大型化します。マニアにはたまりません。